

令和元年 8 月 21 日  
検討委員会

認定 NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会（全木り連）  
——大規模災害復興への取り組み——

### 全木り連の性格と沿革

全木り連は廃木材を資源として再生するチップメーカーとその資源を原料や燃料として使用するチップユーザー等で構成する団体で、6つの地域協会からなり、全国に約200社の会員がいる。廃木材のチップ生産の約70%から80%を会員が占める。木材資源のリサイクルを通して、官・学・業・民の結びつきを図る団体として活動している。

#### 【 沿 革 】

昭和60年…東海、近畿、関東の地域協会発足

平成4年…連合会が任意団体として発足。その後、平成13年に中四国、平成14年に東北に地域協会発足

平成16年…NPO法人となる。その後、平成23年に九州に地域協会発足

平成27年…認定NPO法人となる

### 全木り連の大規模災害復興への取り組み

#### 1. 東日本大震災（平成23年3月）

平成23年6月に東日本大震災における災害木くず運用の提案

- ① 災害木くずを倒壊木くずと津波災害木くずに分類
- ② バイオマスボイラー利用の検討…含有量試験方法の検討、含有塩分への対応
- ③ 木質ボード材活用のプラン…東北地方における処理能力と母材保管場所の調査
- ④ 母材出荷、チップ出荷のケースを考慮し、広域輸送手段及び利用先を検討…広域処理は放射能問題の大きな壁に直面
- ⑤ 倒壊家屋数…全壊：118,822、半壊：184,615

#### 2. 熊本地震（平成28年4月）

政令市の熊本市は自ら処理したが、熊本市以外の市町村は熊本県に委託

- ① 熊本県二次仮置場災害廃棄物処理業務を県災害廃棄物処理業連合体（構成員12社）が受託…九州協会会員がA.母材受け入れとチップ化に従事、B.現地（仮置場）で処理したチップの流通に従事
- ② 全木り連として、災害木くずの受け入れのため、同年7月に保管容量調査、同年11月に震災木質チップ受け入れ可能量調査を全国の地域協会（北日本・関東・東海・近畿・中四国）対象に実施…必要に応じ九州協会から連絡

- ③ 倒壊家屋数…全壊：8,668、半壊：34,492、一部損壊：154,098

### 3. 九州北部豪雨（平成 29 年 7 月）

福岡県朝倉市及び福岡県の災害廃棄物の流木・土砂対策で九州協会の会員が従事

- ① 朝倉市の一次仮置き場…朝倉市から九州協会会員が災害廃棄物処理業務を受託した  
② 福岡県の二次仮置き場…産業廃棄物協会の一員として九州協会会員が従事＝チップ化とその後の処理  
③ 倒壊家屋数…全壊：336、半壊：1,096、一部損壊：49、床上浸水：180、床下浸水：1,481

### 4. 平成 30 年 7 月豪雨（平成 30 年 7 月）

岡山県の災害廃棄物処理業務を岡山県災害廃棄物処理業務共同事業体（構成員 14 社）が受託…中四国会員企業が構成員となる

- ① 岡山県の一次仮置き場、二次仮置き場の管理運営において中四国会員企業が木くずの処理に従事。中四国協会会員及び九州協会会員が母材受け入れに従事  
② 倒壊家屋数…全壊：6,539、半壊：9,511、一部損壊：3,196、床上浸水：6,515、床下浸水：14,330（岡山・広島・愛媛 3 県で同 10 月時点）

### 5. 全木り連事業における災害対策

#### (1). チップメーカー会員の許可能力調査（別添資料）

国への要望（後述）に関連して、全木り連として裏付けとなるデータを整える目的で、平成 30 年度事業において、大規模災害への対応のために全木り連チップメーカー会員の許可能力について、木材リサイクルマップに掲載している工場を対象に全木り連の潜在能力を地域別に把握した

#### (2). 大規模災害への対応アンケート（別添資料）

令和元年 7 月に、国への要望（後述）に関連して、全木り連として裏付けとなるデータを整える目的で、「木質バイオマス需要調査」及び「木質チップ等生産会員実態調査」において、例年の調査に加えて、大規模災害への対応アンケートを実施した。なお、調査回答は 8 月末を予定しており、順次集計している

### 災害に関連した全木り連の国への要望

#### 1. 災害時の対応について（平成 29 年 1 月）

大規模災害時には災害廃棄物の迅速な処理が不可欠であるが、この際には廃木材が多量に発生する場合が多い。全国をブロックに分けて開催している大規模災害廃棄物対策地域協議会・連絡会に、廃木材の処理を迅速に行うとともに、木材資源のリサイクルを円滑に進めるため当連合会の地域代表者の参画を諮らねたい

## 2. 災害時の対応について（平成 30 年 1 月）

大規模災害時には災害廃棄物の迅速な処理が不可欠であるが、この際には廃木材が多量に発生するケースが多い。こうした災害材を有効に活用するための枠組みを検討するとともに、処理にあたっては当連合会のノウハウを活用されたい。

## 3. 災害時の対応（令和元年 6 月）

大規模災害時には災害廃棄物の迅速な処理が不可欠であるが、この際には廃木材が多量に発生するケースが多い。こうした災害材を有効に活用するための枠組みを検討されたい。また、リサイクルのためには処理ルートが不可欠で、連合会にはそのルートがあり、事前に相談を受けることで円滑な処理が可能である。したがって、処理にあたっては当連合会のノウハウを活用されたい。